

Covid-19による外出制限が フランスの中小企業経営者の健康に及ぼした影響 —2020年4月外出制限令下のフランス中小企業経営者に対する調査より—



亀井 克之
(関西大学
社会安全学部教授)



オリビエ・トレス
(フランス モンペリエ大学
経営学部教授)



影浦 ちひろ
(フランス AMAROK
プロジェクト・マネージャー)

< 要 旨 >

「経営者の心身の健康は、中小企業の大きな経営資産」と提唱し、フランスの研究機関 AMAROK は2010年代から中小企業経営者の健康に関する調査と社会的提言を行っている。

2020年にコロナ禍は全世界で企業経営に影響を及ぼし、経営者を不安に陥れた。フランスでは厳格な外出制限令により事業活動が停止され、経営者は自宅に籠る生活（コンフィヌモン）を強制された。AMAROKでは、フランスで外出制限令が発令された3月17日から5月11日までの55日間の真只中の4月16日から22日までの期間に、フランス全土の中小企業経営者・個人事業主1,925人にアンケート調査を実施した。本稿では、調査レポートに基づき調査結果を紹介する。調査で示されたのは、主として以下の4点である。①重症化リスクよりも経営リスクの方が健康には悪影響：経営破綻のリスクは何%くらいあるかという質問に対して、平均で30.5%という数値が出た。経営破綻リスクの回答値は、健康状態との強い負の相関関係を示した。それは罹患し重症化する可能性と健康状態との間よりも強い負の相関性であった。②健康状態良好・メンタルヘルスと睡眠状態は悪化：外出制限令により強制的に与えられた休暇は、中小企業経営者の身体的健康（フィジカルヘルス）にプラスの効果をもたらした。外出制限期間中には多くの中小企業経営者が強制的に休養を余儀なくされ、体力を回復したと考えられる。しかし、家に引きこもり事業が火の車になっていくのを見てみると、メンタルヘルスや睡眠の質に大きく影響が出たことが示された。③バーンアウト（燃え尽き症候群）のリスク：BMS10に基づき調査したところ、過去の調査と比較して、バーンアウトのリスクの値が最も悪かった。回答者のおよそ9%が、外部の支援や介入を必要とする段階であったことが示された。④アントレプレナー特有の機会追求・警戒心における「評価」段階の鈍り：テン、カクマー、ブセニツが開発した13個の質問項目を使って調査を行なったところ、ビジネスチャンスの「評価」の段階の値が過去の調査と比較して低かった。外出制限下で展望が開けにくい状況で、中小企業経営者が戦略を練るのに苦労している様子が垣間見られた。⑤中小企業経営者・個人事業主ならではの健康資本（サリュートプルノリアル）の維持：中小企業経営者・個人事業主ならではの健康上の強みについて AMAROK は独自の概念を提起している。今回、「楽観」の値は過去の調査に比べて低下した。しかし、その他の「レジリエンス」「適応能力」「問題解決能力」「自分の行動に意味を与える意思」などの項目については、外出制限下の今回の調査においては過去調査よりも若干回答値が高かった。フランスにおける未曾有の外出制限令下においても中小企業経営者に特有の危機突破力・レジリエンスが発揮されたということであろう。

AMAROK2020年4月調査は、フランスにおける外出制限令の最中に、全土の商工会議所のネットワークを活用して、1,925人の中小企業経営者に独自の視点で健康に関する調査を実施したという点で、世界的に類例のない非常に貴重な調査であり示唆に富む。

目次

はじめに

1. 2020年4月外出制限令下のフランスにおける中小企業経営者1,925人調査結果の概要
2. フランスにおける外出制限（コンフィヌモン）令について

3. 外出制限令下の中小企業経営者の健康に関する調査の要点
4. 調査の概要
5. 調査結果の分析
6. サリュトプルノリアル資本（健康的企業家資本）

おわりに

はじめに

「経営者の心身の健康は、中小企業の大きな経営資産である」と南仏モンペリエ大学経営学部のオリビエ・トレス教授が今から10年前に提唱した。¹以来、同教授は、AMAROKという研究機関を立ち上げ、中小企業経営者と個人事業主の健康について支援する活動を展開してきた。筆者らは、AMAROKの日本支部AMAROK JAPAN（代表 大妻女子大学・尾久裕紀教授）を設立し、日仏共同・比較研究を行ってきた。最も大規模な日仏共同調査研究として、あんしん財団と大妻女子大学がAMAROKフランス本部と日本支部と共に2016年から2019年にかけて実施した「AMAROK経営者健康あんしんアクション」がある。その調査結果はあんしん財団のWEBサイトで公開されている。²

わかったことは、アントレプレナー（中小企業経営者・個人事業主）の方が、自分の裁量

で仕事をする事ができ、上からのストレスがない分、心身の健康状態が良いということだった。一方で、ついつい一人で頑張りすぎてしまい、健康状態を悪化させる可能性もあるということも明らかになった。³

ところが、2020年に全世界を襲ったコロナ禍は、企業経営を直撃し、経営者を不安に陥れた。フランスでは厳格な外出制限令が実施された。外出制限令により、大部分の事業活動が停止され、経営者は自宅に籠る生活を強いられた。外出制限令により自宅に籠ることをフランス語でコンフィヌモン（confinement）というが、あらゆる場面で耳にする言葉となった。

AMAROKは、外出制限令が発令された3月17日から5月11日までの55日間の真只中の4月16日から22日までの期間に、フランス全土の中小企業経営者・個人事業主1,925人にアンケート調査を実施した。本稿では、AMAROKの調査レポート⁴に基づき、その調査結果を紹介する。同時に、現在も続く新型コロナウイルス

1 Olivier Torrès (2017) (sous la direction de), *La santé du dirigeant. De la souffrance patronale à l'entrepreneuriat salutaire*, 2^e édition, deboeck,

2 あんしん財団のWEBサイトにおいて「AMAROK経営者健康あんしんアクション」の成果が公表されている。https://www.anshin-kokoro.com/amarok/closeup/

3 「AMAROK経営者健康あんしんアクション」による日仏共同調査の初期の分析結果については、『商工金融』2017年10月号（第67巻第10号）に掲載した次の論文で明らかにした。亀井克之「中小企業経営者の健康とリスクマネジメントー日仏共同第1回調査の結果から見えるものー」『商工金融』2017年10月号（第67巻第10号）、2017年10月、41-56頁。

4 この調査レポートは、AMAROKのWEBサイト <http://www.observatoire-amarok.net/>に掲載されている。本稿において、AMAROK2020年4月調査のレポートの内容を使用することについては、AMAROKの許諾を得ている。また、AMAROKによる一連の調査研究は、フランスCNIL（Commission nationale de l'informatique et des libertés, 情報処理および自由に関する全国委員会）の承認を得ている。

感染症の流行下における経営者の健康についての示唆をまとめる。

1. 2020年4月外出制限令下のフランスにおける中小企業経営者1,925人調査結果の概要

まずは、本調査結果の概要を本節に示す。

1.1. 重症化リスクよりも経営リスクの方が健康には悪影響

AMAROKが実施したフランスの中小企業経営者2020年4月1,925人調査では、経営破綻のリスクは何%くらいあるかという質問に対して、平均で30.5%という数値が出た。経営破綻リスクの回答値は、健康状態との間に強い負の相関関係を示した。ウイルスに罹患しさらには重症化する可能性と健康状態との間よりも強い負の相関性が見られた。

1.2. 健康状態良好・メンタルヘルスと睡眠状態は悪化

調査責任者のトレス教授は本調査結果のパラドックスと呼んでいるが、外出制限令により強制的に与えられた休暇は、中小企業経営者の身体的健康（フィジカルヘルス）にプラスの効果をもたらしたことが示された。同教授が代表を務めるAMAROKが過去に5回実施した調査と比較して、中小企業経営者がフィジカルヘルスについてかつてこれほど高いスコアを獲得したことはなかった。通常、労働時間が週50～55時間になると、身体疲労がおこる。外出制限期間中には多くの中小企業経営者が強制的に休養を余儀なくされ、体力を回復したようだ。に

もかかわらず、家に引きこもり事業が火の車になって行くのを見ていると、メンタルヘルスや睡眠の質に大きく影響が出たことが示されている。フランスの中小企業経営者らは極度の緊張状態にさらされた。自分の事業活動を妨げられることほど辛い試練はない。また事業の減速ほど彼らを不安にさせるものはない。AMAROKが中小企業経営者の心身の健康調査を開始して以来、睡眠の質に関する値は最も悪くなった。4月調査当時の情勢は中小企業経営者に眠れない夜としてつきまとったようだ。

1.3. バーンアウト（燃え尽き症候群）のリスクと支援機関

フランス2020年4月調査では、パインスが2005年に開発した（仕事のことを考えると）「疲れたと感じる」「落ち込むことがある」「他人に失望感を感じる」「絶望することがある」など10項目の質問文を使ってバーンアウト（燃え尽き症候群）のリスクについて調査された。すると、過去の調査と比較して、バーンアウトのリスクの値も今回調査が最も悪かった。回答者のおよそ9%が、外部の支援や介入を必要とする段階であったことが示された。こうしたこともあり、コロナ禍の到来以来、フランスでは、リーマンショックの時期に設立された、アペザ（APESA）など、中小企業経営者の健康に関する支援や相談機関の意義が再認識されている。

1.4. アントレプレナーによる機会追及と警戒心

アントレプレナー（企業家）特有のビジネスチャンス追及と失敗リスクに対する警戒心について、テン、カクマー、ブセニツが開発した13

個の質問項目を使って調査が行われた。通常は、①ビジネスチャンスに関する情報探索、②探索した情報の連結（コネクション）、③評価の段階を経て起業へと導かれる。アントレプレナー特有の警戒意識（①探索と②コネクション）から真のアントレプレナー特有の機会追求（機会段階）へと導くのが③評価段階である。

フランス2020年4月調査では、評価段階の値が過去の調査と比較して低かった。外出制限下で展望が開けにくい状況で、中小企業経営者が戦略を練るのに苦労している様子が垣間見られた。だがトレス教授は、「ピンチをチャンスに。逆境下でのビジネスチャンスの評価は健康維持とリスタートに向けた最良の解毒薬だ」と分析している。

1.5. 中小企業経営者・個人事業主ならではの健康資本

中小企業経営者・個人事業主ならではの健康上の強みについてトレス教授が独自に質問項目を開発しているが、今回、「楽観」の度合いが過去調査にくらべて低下した。しかし、その他の「レジリエンス」「適応能力」「問題解決能力」「自分の行動に意味を与える意思」などの項目については、外出制限下の今回の調査においては過去調査よりも若干回答値が高かった。中小企業経営者に特有の危機突破力・レジリエンスが発揮されたということであろう。

2. フランスにおける外出制限令について（コンフィヌモン）

2.1. 3月16日の発表：3月17日正午から外出制限令

3月16日、マクロン大統領はテレビ演説し、外出制限令を実施し、規則に違反した場合は罰金を課すこと、EU共通の決定により、3月17日から、EU及びシェンゲン圏への入境を閉鎖して、EU域外国とEU圏内国の間の渡航を30日間停止することなどを発表した。

大統領によれば、3月17日正午から、少なくとも15日間、フランス国内において、外出を大きく制限。野外における集会、友人や親族との会合は禁止。1メートルの距離を守り接触を避けた形での買い物、通院、テレワークが困難な場合の通勤、若干の運動といった必要な外出のみを許容。規則に反した者は罰則を受ける。

3月16日マクロン大統領のテレビ演説の内容は次の通りであった。①EU共通の決定により、3月17日正午から、EU及びシェンゲン圏への入境を閉鎖。②EU域外の国とEU域内の国の間の移動を30日間停止。現在EU圏外にいるフランス人の帰国は可能。③経済面に関しては、税金及び社会保険料支払いの延期、銀行の貸し付けの返済期限の繰り延べ、国による3,000億ユーロを上限とした保証。④危機に瀕する小企業に関しては、税金、社会保険料、水道・電気・ガス代金、賃料支払いも延期。⑤部分的失業の拡大、起業家、手工業者、商人のための、国による連帯基金の設立。

カスタネール内務大臣が発表した各措置の詳細は以下の通りである。

①3月17日（火）12時から15日間（延長可能性あり）、厳格な移動制限措置がとられる。基本的には自宅待機である。違反した場合の罰金は現状では38ユーロであるが、近く最大135ユーロにまで上げる。②以下の事項については

例外と見なされ、事前に証明書を取得しておくことで移動が許可される。

- ・テレワークが不可能な場合の、自宅から職場への移動(併せて職場を証明する書類が必要)
- ・許可された近場の商店での必需品の買い物
- ・医療関係業務のための移動
- ・子供の保育又は脆弱な人の支援のための移動
- ・運動(個人で行い、自宅の周囲で、人の集まりを伴わないものに限る)。

3月27日にフィリップ首相が4月15日までの外出制限措置の延長を発表した。4月13日にはマクロン大統領が再びテレビ演説し、5月11日まで再び延長することを発表した。

2.2. 5月11日外出制限解除

4月28日、フィリップ首相が国民議会において5月11日以降の制限解除等に関して演説し、以下の要請をした。企業に対しては、6月2日まで、テレワークを継続すること。不可能な場合は、ローテーションを組む等すること。業種毎に、コロナ対応マニュアルを作成している。現在33のマニュアルがあり、今後60まで拡大するので参照して欲しい。人と人との距離がとれない場合はマスクを義務付けること。部分的失業制度については、6月1日まで延長していく方針。商業施設については、カフェ、レストラン、バー、ディスコ、大型ショッピングモール(40,000平方メートル以上)以外の商業施設は5月11日以降再開可能。カフェ等は、6月2日以降の再開。マルシェ(屋外市場)も5月11日以降再開できるが、地方自治体の判断で閉めることも出来る。商業施設では、1mの距離や人数制限、マスク推奨等につき、配慮する必要がある。

5月7日、防衛閣議にて5月11日からの外出制限緩和が決定され、同日、フィリップ首相及び6大臣による外出規制緩和に関する説明があった。各大臣の発表内容は以下の通りである。

(首相・保健相)

- ・防衛閣議にて、5月11日からの外出制限緩和が決定された。仏全土は赤ゾーンと緑ゾーンの2つに分けられ、各ゾーンで制限緩和のあり方が異なる。ゾーン分けは、1.ウイルスの流行、2.病院の受け入れ能力、3.PCR検査の能力という基準に基づきなされる。

- ・緑ゾーンにおいては、6月上旬から、レストランやカフェ、高校が再開する可能性がある。
- ・75億ユーロをEHPAD(高齢者福祉施設)勤務者の特別手当として新たに拠出。

(交通大臣)

- ・公共交通機関は、5月11日から本数を増やし、車内で乗客同士の物理的距離を確保。
- ・引き続きテレワークを推奨。出勤する場合でも、公共交通機関における混雑を防ぐために、勤務時間をずらす。

(経済大臣)

- ・5月11日、40万の企業、87.5万名の労働者が仕事に戻る。
- ・イル・ド・フランス圏を除き、40,000m²以上の大型商業施設についても、地域圏知事の同意があれば再開可能。
- ・連帯基金は5月末まで維持する。
- ・小規模企業について、3月、4月、5月分の社会保険料・税の支払は免除する。

(労働大臣)

特にイル・ド・フランス圏においては、可能な限りテレワーク推奨。

以上のように、フランスでは、2020年3月17日から5月11日まで、例外に相当しない限り、外出制限令に従って、自宅にこもる生活（confinement コンフィヌモン）が強制された。要請を中心とする日本の緊急事態宣言と異なり、フランスでは、例外を除き、基本的に全ての商店、レストラン、カフェが閉店し、企業ではテレワークが標準となった。これは、欧州でも全国規模で実施された外出制限令としては、類例のない厳格なものであった。⁵

3. 外出制限令下の中小企業経営者の健康に関する調査の要点

フランスで外出制限令が発令されている最中の2020年4月に、AMAROKが実施した調査の要点は次の4点にある。

- ① コロナウイルスによる危機はアントレプレナー（中小企業経営者）の健康にいかなる影響を及ぼしているか？
- ② アントレプレナー特有の機会追求と警戒意識（仏語 vigilance entrepreneurial、英語 entrepreneurial alertness）をいかに発揮しているか？
- ③ 警戒意識は、経済活動の本格的な再開時に、飛躍する原動力となるか？
- ④ アントレプレナー特有の楽観性・ダイナミズム（サリュトプルノリアル）は、危機的状況においてどのように作用しているか？
- ⑤ 警戒意識や楽観性・ダイナミズムは総合的にアントレプレナーの健康にプラスに作用しているか？

4. 調査の概要

4.1. 調査の名称

AMAROK2020年4月調査の正式名称は、Enquête Nationale Entrepreneuriat français et Redémarrage économique post-crise sanitaire（アントレプレナーシップとコロナ禍後の経済活動再開に関する全国調査）である。

4.2. 調査・研究の設計者：

オリビエ・トレス：モンペリエ大学経営学教授（中小企業経済）、AMAROK代表。モンペリエ大学LABEX Entreprendre（代表ジャン＝マリー・クーラン教授）。アレクサンドル・ベンザリ：モンペリエ大学LABEX Entreprendre研究助手。ロイ・チュリック：ロッテルダム大学エラスムス校（オランダ）名誉教授他。

4.3. 調査の協力機関

エロー商工会議所、コート・ドール商工会議所、ソーヌ・エ・ロワール商工会議所、モルビアン商工会議所、ヴァンデ手工業会議所、ソーヌ・エ・ロワール農業会議所、フランス建築連盟他。

4.4. データ収集：方法・回答率・期間

AMAROKでは、開始段階でベースとなる職業層について、協力機関を通じて、調整する必要があった。協力機関を通じて中小企業経営者、商店経営者、職人、士業、農業従事者46,220人に対して、インターネットを通じて約15分全102問のアンケート調査を実施した。最終的

⁵ 在日フランス大使館のWEBサイトより。<https://jp.ambafrance.org/>

には、1,925人の中小企業経営者から全問の回答を得た。全問の回答率は4.16%であった。AMAROKでは、この返答率は非常に高いと評価している。AMAROKによれば、これには2つの理由がある。①外出・営業制限下における中小企業経営者らの時間的余裕による。②本研究の主題への関心の高さによるところが大きい。つまり、経済活動再開はフランス経済復興の重要な課題である。

データ収集は、フランスが2020年3月14日にステージ3に移行してから1ヶ月後の2020年4月16日から22日の期間に行われた。

なお統計処理にはXLSTAT2019が使用された。

4.5. 調査項目の構成

AMAROK2020年4月調査における質問構成は以下の通りで、全102問である。

基本項目：12問（性別、生年月日、居住県、婚姻状況、学歴、業種、従業員数、職種、現職についてのビジネスチャンスを掴もうとしたからか又は他に選択肢がなかったからか、家業継承者・創業者・外部継承者のいずれか、資本所有率、経営者となって何年目か）。

外出制限（コンフィヌモン、confinement）状況：2問（外出制限前の生活に対する満足度、外出制限令発令後の生活に対する満足度）

健康に関連するリスク：2問（Covid19に感染するリスクはどれ位あると思うか、重症化するリスクはどれ位あると思うか）。

経済活動に関するリスク：5問（2020年2月末までの競合他社と比較しての業績、事業状

況、売り上げ、今後の業績予想、倒産の可能性）。

健康：10問（健康1問、メンタルヘルス1問、睡眠1問、不安7問）。

労働環境：13問（バーンアウト10問、労働時間1問、孤独1問、ストレス1問）。

アントレプレナーとしての警戒心（entrepreneurial alertness）：13問（情報の収集6問、情報の連結3問、ビジネスチャンスの評価4問）。

アントレプレナーとしての方向性：9問（イノベーション3問、リスクテキング3問、先見性3問）。

環境意識・企業の社会的責任：2問（環境意識1問、企業の社会的責任1問）。

レジリエンス：4問（困難対処の独創的方法の探索、いかなる状況下でも自分をコントロール、困難な状況で前向きに成長できる信念、損失を埋め合わせる方法の模索）。

楽観性：6問。

自己効率性：10問（難題解決、必要なものを入手する力、目標達成力、想定外の出来事への効果的対処、不測事態への臨機応変な対応、努力による問題解決、問題に対処できるがゆえの落ち着き、問題直面時の解決策案出、行き詰まった時でも何ができるか考える力、何が起きようと立ち向かう力）。

アントレプレナー特有の状況：9問（楽観性、自己効力感、自分らしい行動をとる能力、レジリエンス、自分の行動に意味を与える意思、適応能力、自分の行動に責任を持つ能力、問題解決能力、希望を持つ力）。

テクノストレス：5問。

5. 調査結果の分析

5.1. Covid 19罹患リスクと経営破綻リスクの健康への影響比較

AMAROK 調査では、まず興味深い結果として、COVID-19に罹患し重症化するリスクよりも、経営破綻リスクの方が中小企業経営者の健康には悪影響であるという結果が示された。感染症の流行の状況が最悪であった時期に実施された調査の結果として意外に思うことも可能であろう。しかし、中小企業経営者（アントレプレナー）の性質を知る者にとっては驚きではない。この結果は、アントレプレナーが事業や

会社のために心身を捧げているという状況を裏付けるものであろう。調査実施段階では、外出制限・事業活動停止という前代未聞の出来事に直面して、回答者は一歩距離をおいて考えることができなかった可能性もある。

経営破綻のリスクは何%くらいありますかという質問に、平均で30.5%という数値が出ている。経営破綻のリスクと健康状態との間に強い負の相関関係があらわれた。ウイルスに感染し、さらには重症化する可能性と健康状態との間よりも強い負の相関性が見られた。

具体的な質問項目を次に示す。（番号は実際の調査における質問番号を示す）

外出制限下の生活について

1. 全体的に、外出制限前の生活に満足していましたか？
（尺度：1全く満足していない - 10とても満足している）
2. 全体的に、外出制限が始まってからの生活に満足していますか？
（尺度：1全く満足していない - 10とても満足している）

健康へのリスク

15. ご自身が、今後3ヶ月でコロナウイルスに感染する可能性はどのくらいだと思いますか？
（尺度：0～100%の間の数値を記入してください）
16. ご自身が、今後3ヶ月以内にコロナウイルスに感染した場合、重症化する可能性はどのくらいありますか？（尺度：0～100%の間の数値を記入してください）
17. 2020年2月末までの業績で、主要な競合他社と比較した貴社の業績は：
（尺度：1（最悪）～5（最高））
 1. 最悪
 2. 悪い
 3. 良くも悪くもない
 4. 良い
 5. 最高

18. 2020年2月末までの業績を見ると、貴社の業績は…：

(尺度：1 (大いに黒字) ～5 (大いに赤字))

- | | |
|----------|----------|
| 1. 大いに黒字 | 4. 赤字 |
| 2. 黒字 | 5. 大いに赤字 |
| 3. 安定 | |

19. 2020年2月末までの業績で、貴社の年商は…：

(尺度：1 急増 (+25%以上) ～5 急落 (-25%以上))

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 急増 (+25%以上) | 4. 減少 (-5%から-25%) |
| 2. 上昇 (+5%から+25%) | 5. 急落 (-25%以上) |
| 3. 安定 (±5%) | |

20. 今現在、貴社の業績 (年商) はどのように変化していますか？

(尺度：1 急増 (+25%以上) ～5 急落 (-25%以上))

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. +5%以上 | 4. -25%から-50% |
| 2. ±5% | 5. -50%から-100% |
| 3. -5%から-25% | |

21. 貴社の現状を考慮してみて、コロナ禍の影響で倒産申請する確率はどのくらいですか？

(尺度：0 ～100%)

0 ～100%の間で回答：

図表1 感染リスク 重症化リスク 倒産リスク

	平均値	標準偏差
今後3ヶ月でコロナウィルスに感染する可能性はどれくらいだと思いますか?(0%～100%)	40.766	27.279
今後3ヶ月でコロナウィルスに感染した場合に重症化する可能性はどれくらいだと思いますか?(0%～100%)	30.271	27.178
貴社の現状を考慮してみてコロナ禍の影響で倒産申請する可能性はどのくらいですか?(0%～100%)	30.261	28.768

図表2 感染/重症化/倒産リスクと健康 (身体的健康・メンタルヘルス)・睡眠の相関

	健康 R ² =0,054		身体的健康		メンタルヘルス		睡眠	
15. 今後3ヶ月でコロナウィルスに感染する可能性はどれくらいだと思いますか?(0%～100%)	-0.015	0.038	-0.013	0.116	-0.018	0.044	-0.015	0.118
16. 今後3ヶ月でコロナウィルスに感染した場合に重症化する可能性はどれくらいだと思いますか?(0%～100%)	-0.035	< 0,0001	-0.061	< 0,0001	-0.019	0.037	-0.026	0.006
21. 貴社の現状を考慮してみてコロナ禍の影響で倒産申請する可能性はどのくらいですか?(0%～100%)	-0.047	< 0,0001	-0.019	0.011	-0.066	< 0,0001	-0.058	< 0,0001

5.3. フィジカルヘルス・メンタルヘルス・睡眠

5.3.1. フィジカルヘルス・メンタルヘルス・

睡眠に関する質問項目

図表3 健康状態に関する質問項目

あなたの健康状態についてお尋ねします。(尺度：1（最高）から5（悪い）まで）

この一ヶ月の	最高	とても良い	良い	まあまあ	悪い
22. 体調は：					
23. 気分は：					
24. 睡眠の質は：					

なお下記の分析においては、数値が上がるほどフィジカルヘルス、メンタルヘルス、睡眠の状況が良いことを示すように数値を逆転させている。

5.2.2. 結果と考察：フィジカルヘルスの好転とメンタルヘルス・睡眠の悪化

これはAMAROK2020年4月調査結果が示したパラドックスの一つである。外出制限令による強制的な休息は身体にプラスの効果をもたらしたことが示された。AMAROKの過去の調査では、調査対象の中小企業経営者がフィジカルヘルスについてこれほど高いスコアを獲得したことはなかった。通常、労働時間が週50～55時間になると、身体疲労がおこる。外出制限期間中には多くの中小企業経営者が強制的に休養を余儀なくされ、体力を回復したようだ。

しかしながら、家にひきこもって、活動停止中の事業が火の車になって行くのを見ている

と、メンタルヘルスや睡眠の質に大きく影響が出たわけである。メンタルヘルスのスコアは2.89であり、厳しい状況にさらされているのがわかる。調査時、フランスの中小企業経営者らは極度の緊張状態にさらされていた。中小企業経営者・個人事業主にとって事業活動を妨げられることほど辛い試練はない。長時間労働の常習者で、長時間労働は最大の職業的ストレス要因である。⁶ 一方で、調査時における事業の減速ほど経営者を不安にさせる要因はなかった。事業の減速は将来への不安として現れた。睡眠の質の調査結果がこれを示している。

AMAROKが中小企業経営者の心身の健康調査を開始して以来、ここまで睡眠の質が悪い調査結果は初めてのことである。

AMAROKの過去の調査との比較は有益であるが、サンプルサイズの違いを考慮する必要がある。2019年3月調査のフランス国立統計経済研究所（INSEE）の事業者名簿識別システムSIRENEからのコホートは、その規模（1,501人）、

6 Lechat T. et O. Torrès (2016), «Les risques psychosociaux du dirigeant de PME : Typologie et échelle de mesure des stressors professionnels», *Revue Internationale PME*, Vol. 29, n°3-4, pp. 135-159. (T. ルシャ、O. トレス (2016), 「中小企業経営者の社会的心理リスク：職業性ストレス要因の類型と測定尺度」)

図表4 AMAROKによる過去の調査と2020年4月調査（Covid-19）における
フィジカルヘルス・メンタルヘルス・睡眠の平均スコア

（＊数値が上がるほどフィジカルヘルス、メンタルヘルス、睡眠の状況が良いことを示すように質問項目の設定値を逆転させている。）

	期間 (企業数)	フィジカルヘルスの 自己診断		メンタルヘルスの 自己診断		睡眠の質の 自己診断	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
コホート（マラコフ・メデリック／青年会議所1）＊ Cohorte（Malakoff Médéric／CJD1）＊	2011年3月－ 2012年12月 (N=266)	2.90	0.59	3	0.67	2.63	0.76
コホート（フランス建築連盟）＊ Cohorte（FFB）＊	2015年2月－ 2016年12月 (N=281)	2.91	0.60	2.85	0.59	2.61	0.71
コホート（ガランス保険） Cohorte（GARANCE）	2017年11月 (N=927)	3.04	0.90	3.04	0.9	2.75	1.03
コホート（ハーモニー・ムチュエル／中小企業連合会） Cohorte（Harmonie Mutuelle／CPME）	2018年4月 (N=507)	3.07	0.82	3.11	0.93	2.66	1.01
コホート（マン保険財団／事業者名簿識別システム） Cohorte（Fondation MMA／SIRENE）	2019年3月 (N=1,501)	3.13	0.91	3.37	0.96	2.93	1.06
コホート（COVID-19） Cohorte（Covid-19）	2020年4月 (N=1,925)	3.35	0.94	2.89	1.04	2.42	1.06

構造（平均社員数、男女比、専門職等）、調査日（2019年3月）から、2020年4月（COVID-19）調査との比較にふさわしい。

5.3. バーンアウト（燃え尽き症候群）

5.3.1. パインズ（2005年）によるバーンアウト尺度短縮版：BMS10項目

AMAROKでは、中小企業経営者の健康に関する調査研究を開始以来、バーンアウト（燃え尽き症候群）に注目し、調査項目に入れてきた。今回の2020年4月調査においても、バーン

アウトの項目が調査項目に入った。採用されたのは、パインズが開発したバーンアウト測定尺度短縮版（The burnout measure short version, BMS）10項目である。BMS10と略す。⁷

以下はBMS10の内容である。上から順に「疲労感」「失望感」「絶望感」「八方塞がり感」「無力感」「落ち込み」「病気の不安」「無価値」「睡眠障害」「疲労感」の10項目である。番号はAMAROK2020年4月調査における質問番号である。

⁷ Malac-Pines, A. (2005). The burnout measure short version (BMS). *International Journal of Stress Management*, 12, 78-88. フランス語訳にあたっては以下の論文が参照された。Lourel M., Gueguen N. et Mouda, F. (2007). 《L'évaluation du burnout de Pines : adaptation et validation en version française de l'instrument Burnout Measure Short version (BMS-10)》. *Pratiques psychologiques*, vol. 13, n°3, pp. 353-364.

図表5 バーンアウトに関する質問項目 (BMS10)

(尺度：1（一度もない）から7（いつも））
仕事のことを考えた時に、どれくらいの頻度で：
32. 疲れたと感じる
33. 一部の人に対して失望感を感じる
34. 絶望することがある
35. 八方塞がりのように感じる
36. 自分の無力さを感じる
37. 落ち込むことがある
38. 体力の低下や病気の不安を感じる
39. 自分が無価値、「失敗」かのように感じる
40. よく眠れない
41. 「もうたくさんだ」と思うことがある

5.3.2. バーンアウトのスコアに関する結果と

考察

図表6 AMAROK による各調査におけるバーンアウトのスコア

コホート	パートナー企業 (N = 企業数)	実施年度	女性比率%	回答数	バーンアウト のスコア	測定ツール
1	アマロック/マラコフ・メデリック/青年会議所2 AMAROK/MALAKOFF/CJD2	2013-2014	23.2%	399	2.74	BMS10
2	アマロック/フランス建築連盟 AMAROK/FFB	2015-2016	19.2%	275	2.90	BMS10
3	アマロック/マン保険財団 AMAROK/Fondation MMA	2017-2018	28.6%	307	2.20	BMS10
4	アマロック/ハーモニー・ムチュエル/中小企業連合会 AMAROK/Harmonie Mutuelle VYV/CPME	2018	35.7%	493	3.05	BMS10
5	アマロック/マン保険財団/事業者名簿識別システム AMAROK/Fondation MMA/SIRENE	2019	41.8%	1,501	2.90	BMS10
6	アマロック/会議所ネットワーク AMAROK/Réseau Consulaire	2020	38%	1,925	3.39	BMS10

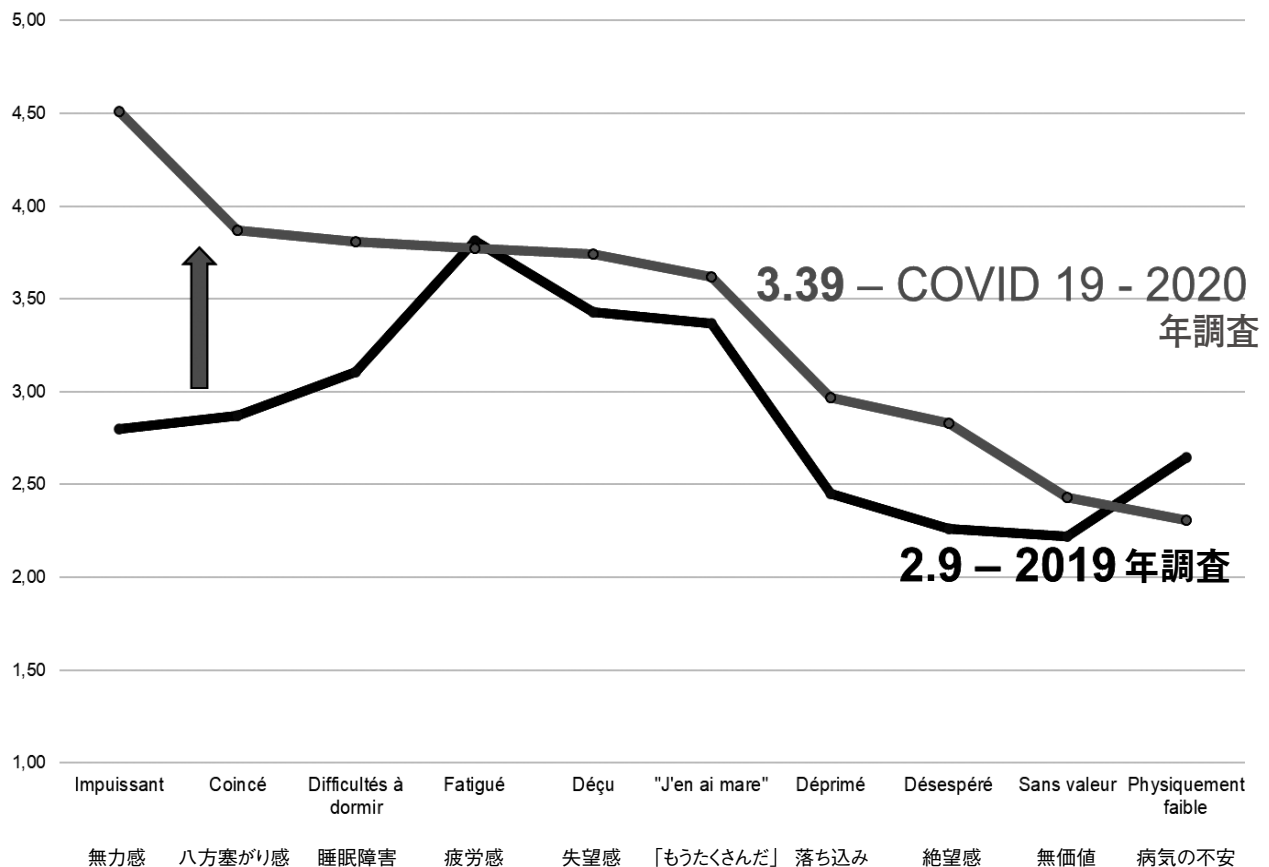
AMAROKは設立以来、モンペリエ大学のLabex Entreprendre（アントレプレナーシップ高等研究所）の協力を得て、時間をかけて様々な業種における中小企業経営者のバーンアウトのレベルを調査してきた。使用したパインスのBMS10は、「脱人格化」の前の最初の段階である「情緒的消耗感期」と「個人的達成感の低下」を計測できるため、予防の観点からも非常に有用である。

図表6の最下段2020年4月調査ではバーンアウトのスコアが高くなっていることが見てとれる。これについて次のようないくつかの推定ができる。AMAROK2020年4月（COVID-19）調査の34.5%の被調査者はスコア4を越えてお

り、パインスの研究によると、バーンアウトのリスクにさらされはじめていることを示すレベルである。2019年調査のフランスの中小企業経営者の代表的サンプル（図表6のコホートNo.5）においては、スコア4を越えるのは17.5%であった。したがって、人数的に比較が可能な2019年調査と2020年調査の結果を見れば、リスクを抱えた中小企業経営者人口はコロナ禍による外出制限により2倍になった。

問題視すべきは、調査対象となった中小企業経営者の9%、つまり1,925人のうち165人が、外部の助けや介入を必要とする段階に至っていることであった。フランスの自営業人口にこの割合を当てはめると、計算上は、30万人近く

図表7 バーンアウトのスコア：2019年調査と2020年調査の比較



の中小企業経営者が深刻なリスクを抱えていたことになる⁸。

経済が鈍化と言うよりむしろ停止してしまった2020年3月17日から5月11日までの外出制限令下では、特定の業種や職業において、「無力感」「八方塞がり感」「睡眠障害」が顕著となった。この3要素が、中小企業経営者の燃え尽きリスクを決定づける最も強い要因だと考えられる。通常時においてもリスク要因（疲労、失望感、枯渇感・倦怠感）が高いレベルで検出されていたが、コロナ禍の外出制限令下では、まるで突然変異したかのように、バーンアウトのリスクは全く別の側面を見せたと言える。

5.4. アントレプレナー特有の機会追求と警戒心

5.4.1. タン、カクマー、ブセニツ（2012年）によるアントレプレナーの機会追求と警戒心の概念

AMAROKでは、以上のようなメンタルヘルスの悪化や、バーンアウトのスコアの上昇などについて悲観的な現状を示すことに終始していただわけではない。中小企業経営者は、コロナ禍においても、平常心を失わずに、外出制限令解除後のローンチに向けて準備し始めていた。それを後押しする分析が積極的に行なわれた。具

体的には、研究設計段階から、2つの重要な概念に注目した。それは、アントレプレナー特有の機会追求と警戒意識（英語Entrepreneurial alertness、仏語Vigilance entrepreneuriale）ならびにリスクテキングである。この概念は2012年に発表されたタン、カクマー、ブセニツの論文に基づいている。⁹

アントレプレナー特有の機会追求と警戒意識（ヴィジランス）は、中小企業経営者のビジネスチャンスをつかむ能力として測定できる。その第一段階は、情報探索、第二段階は、新しいアイデアを生み出すべく情報間につながり（コネクション）を持たせること、そして最終的な第三段階として、アイデアを真のチャンスとして選別すべく評価と判断をすることである。端的に言えば、これは収集した情報から生まれたアイデアを次第にチャンスに変えるというプロセスである。

5.4.2. 機会追求と警戒心に関する質問項目

タン、カクマー、ブセニツが2012年の論文で用いた質問項目は13項目である。AMAROKでは、従来より、これらの質問項目のフランス語訳を用いて調査を実施してきた。2020年4月調査でも図表8に示すこれら13項目が使用され

8 AMAROKでは、中小企業経営者の危機に対処するためにフランスで展開されている対策を評価している。具体的には、専門職組合、多業種内の会議所ネットワーク（商工会議所、手工業会議所、農業会議所）、労働安全衛生ネットワーク（産業医）は、中小企業経営者のバーンアウトのリスクに対処するために電話相談窓口を導入している。

具体例を挙げれば、アベザ（APESA : Aide Psychologique pour les Entrepreneurs en Souffrance Aiguë : 深刻な心身の苦痛に悩む中小企業経営者の支援団体）のネットワークは、中小企業経営者の自殺リスク回避のために尽力している。アベザは、2008年の経済危機をきっかけに結成され、今では多くの商業裁判所に貢献している。また、SOSアントレプレナーは、破産申請に至る段階の企業に対する支援ノウハウを蓄積している公益社団法人である。経営再建のための効果的な手段を見つけることは、コロナ禍後の経済復興における重要課題の一つである。AMAROK自体も中小企業経営者のバーンアウトを防ぐために、電話相談窓口を設置している。近年までに35社以上のパートナー企業がこの制度を利用している。バーンアウトの度合いについての測定から、それに基づく社会的支援の有用性について、AMAROKでは、フランスの主要な経営学の学術誌に次の論文を発表している。

Torrès O. et C. Kinowski-Moysan (2019), "Dépistage de l' épuisement et prévention du burnout des dirigeants de PME : d' une recherche académique à une valorisation sociétale", *Revue Française de Gestion*, n° 284, 2019, pp. 171-189.

（トレス・Oとキノウスキー・モワザン・C（2019年「中小企業経営者のバーンアウトのスクリーニングと予防について：学術研究から社会的活用まで」）

9 Tang J., Kacmar K.M., Busenitz L. (2012), "Entrepreneurial alertness in the pursuit of new opportunities", *Journal of Business Venturing*, 27, 1, pp. 77-94（タン J., カクマー K.M., ブセニツ L. (2012), 「新たな機会を追求するアントレプレナーとしての警戒意識」）

た。左端の数字はタンらの論文で記された質問 調査における質問番号である。
番号であり、和訳の左端の数字が2020年4月

図表8 事業機会追求と警戒心に関する質問項目

Scanning and search (情報探索)

1. I have frequent interactions with others to acquire new information. (32. 新しい情報収集の目的で、他の人と頻繁に交流した。)
2. I always keep an eye out for new business ideas when looking for information. (33. 新しいビジネスのアイデアを見つけようと常に注意深く情報収集した。)
3. I read news, magazines, or trade publications regularly to acquire new information. (34. 新しい情報を得ようと、定期的に新聞や雑誌その他仕事の分野の出版物を読んだ。)
4. I browse the Internet every day. (35. インターネットを頻繁に使用した。)
5. I am an avid information seeker. (36. 情報に飢えていた。)
6. I am always actively looking for new information. (37. 常に新しい情報を積極的に探した。)

Association and connection (情報の連結：コネクション)

7. I see links between seemingly unrelated pieces of information. (38. 一見はっきりとした関係性のなさそうな情報の間につながりをみつけた。)
8. I am good at “connecting dots.” (39. 情報のつながりを作るのに長けていた。)
9. I often see connections between previously unconnected domains of information. (40. 一見関係なさそうに見える分野間の情報でも関係性を見つけることがよくあった。)

Evaluation and judgment (評価)

10. I have a gut feeling for potential opportunities. (36. 良いビジネスチャンスを見つける直感がはたらくことがあった。)
11. I can distinguish between profitable opportunities and not-so-profitable opportunities. (42. 採算の取れるビジネスチャンスとそうでないものを見分けることができた。)
12. I have a knack for telling high-value opportunities apart from low-value opportunities. (43. 付加価値の高いビジネスチャンスと付加価値の低いものを見分ける才能がある。)
13. When facing multiple opportunities, I am able to select the good ones. (41. 複数のビジネスチャンスが訪れた時に、その中でも最高のものを選ぶことができた。)

出所 Tang, Kacmar, Busenits (2012)

5.4.3. アントレプレナー特有の機会追求と警戒心に関する結果と考察

各フェーズは遡及的にお互いに影響を与え合っていることがある。新たなビジネスチャンスはそれに見合う情報を新しく探索する必要を生み、そこからまた新しい発想が生まれる。アントレプレナー特有の警戒意識（探索とコネクション）からアントレプレナー特有の機会追求へと導くのが評価段階である。

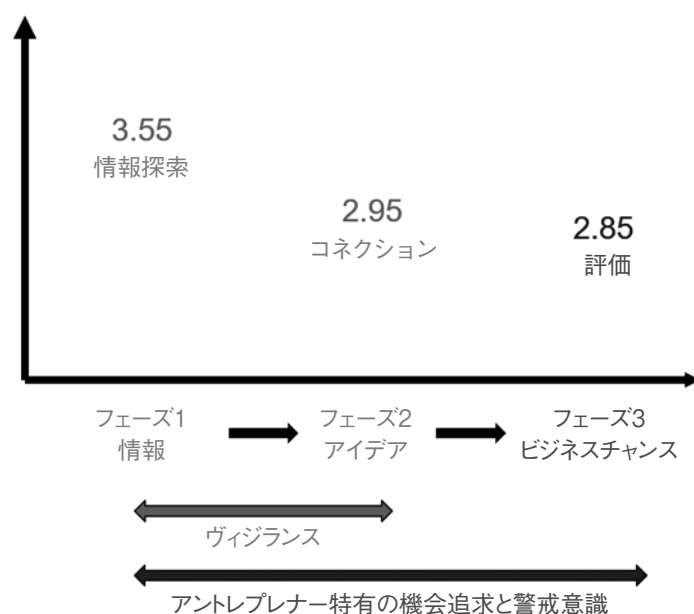
しかし、2020年4月調査で得られた結果は、外出制限令下において、評価段階が萎縮していたことを示している。情報探索のスコアは高いが、情報間のコネクションのスコア、特に評価段階のスコアに異常な低下が見られた。これは中小企業経営者がアイデアをチャンスに変えるのに苦労していたかのようなものである。Covid-19の感染が拡大し、外出制限令下で事業活動が

停止していた時期においては、未来は暗く、状況は曖昧で、中小企業経営者は戦略を練らなくなっていたのだろうか。実際、経営者の周囲は、展望のない情報やオピニオンで溢れていた。

ギリアニの研究 (2016)¹⁰では、情報収集のスコアが3.67、情報間のコネクションのスコアが3.11、評価のスコアが3.28であった。2020年4月調査では、3.55、2.95、2.85となり、全ての局面でスコアが下がった。最大の低下を引き起こしたのは評価のスコアであった。情報探索、コネクション、評価の下げ幅は、それぞれ-0.12、-0.16、-0.43だった。

過去のAMAROK調査では、アントレプレナーの機会追求と警戒意識とは、健康に良いという傾向があった。しかし、2020年4月調査では、AMAROKが中小企業経営者の健康に関する調査を積み重ねてきて、前例のない結果となっ

図表9 2020年4月調査における情報探索・コネクション・評価のスコア



10 この比較は、サンプル数の大きさの違いからくる差異に注意をしつつ扱う必要がある。ギリアニ (2016) は238人のデータ分析であったのに対して、COVID19の本調査は1,925人を対象としている。Guiliani F (2016), 《La vigilance entrepreneuriale : les antécédents liés au sommeil du dirigeant de PME》, Thèse de doctorat en Sciences de Gestion, Université de Montpellier I, 424p. (ギリアニ・F (2016), 「アントレプレナー特有の機会追求と警戒意識：中小企業経営者の睡眠履歴」 経営学博士論文、モンペリエ第一大学)

た。すなわち、情報探索と情報間のコネクションの双方のフェーズが健康に害を及ぼす可能性があるという結果が示されたのである。COVID-19がもたらした危機は、メディアやソーシャルネットワークが発する不安感を煽るような情報を増長させた。情報を得ようとすることは必要だが、不安を煽る情報源に長時間晒され続けると、精神衛生面や睡眠の質に影響が出てしまったということであろう。

また、評価のフェーズは中小企業経営者のリスクテキングと強い相関関係がある。自分たちが実行している行動を評価することや、近い将来実行することを重視することが、再始動時に中小企業経営者の士気向上にも役立つと考えられる。

したがってAMAROKでは、ビジネスチャンスの評価は、健康維持と効果的な経済活動再開に向けた特効薬だと結論づけている。

5.4.4. 調査からの示唆

AMAROKでは、フランスの中小企業経営者に対して、経済活動再開にあたり、中小企業経営者団体やネットワーク（青年会議所、APM、DCF、女性起業家アソシエーション）、経営者組合（中小企業連合会、中小企業経営者組合、企業労働組合、フランス建築連盟、建築労働

組合）に頼ることをあまり勧めていない。ソーシャルサポートの方が様々な面において効果があると考えている。例えば、60 000 Rebonds（「6万人の再起動」）、Re-Créer（「再び創造する」）やSecond Souffle（「第二の息吹」）などの中小企業を支援する団体（association）が構成するポータル（Portail du Rebond「再起動のポータル」）は、「絶望」の淵にいる中小企業経営者がまた再びビジネスチャンスを見出す気力を養い、健康状態を整えるため無料のコーチングを実施している。こうした見解については、次の論考を参考にしている。Schermuly C.C., Wach D., Kirschbaum C. and Wegge J, “Coaching of Insolvent Entrepreneurs and the Change in Coping Resources, Health, and Cognitive Performance”, *Applied Psychology*. February, 2020（シェルムリー・CC、ワック・D、キルシュバウム・C、ウェッグ・J、「債務超過の起業家のコーチング；コーピング、健康、認知パフォーマンスの変化」）

5.4.5. リスクテキング

リスクテキングは、**図表10**の質問項目で測定された。機会追及と警戒意識の3つの局面とクロス分析すると、「評価」フェーズと相関性が高かった。（**図表13** 関連マトリクス参照）。

図表10 リスクテキングに関する質問項目（1（全くない）から7（とてもそう思う））

リスクテキング							
61. リスクは高いが収益性の高いプロジェクトを優先するつもりだ	1	2	3	4	5	6	7
62. 目標を達成するために、大胆でスケールの大きな仕事を優先して行うつもりだ	1	2	3	4	5	6	7
63. 新しい契機を探る体系的な方針を採用するつもりだ	1	2	3	4	5	6	7

6. サリュトプルノリアル資本（健康的企業家資本）

6.1. サリュトプルノリアルの意義

AMAROKは、中小企業経営者・個人事業主（アントレプレナー）が健康を維持し向上するための要因を一貫して追求し、「サリュトプルノリアル」という概念を提起した。

これは、アントノフスキーの研究で示されたサルトジェネシス (Salutogenesis 健康生成論) の考え方に基づいている。元々は、ギリシア語のsalus（健康）とgenesis（起源）の合成による造語である。アントノフスキーは、健康の生成には、首尾一貫感覚（SOC, Sense of Coherence）が重要であるとした。アントノフスキーによれば、SOCには、把握可能感（Comprehensibility）、処理可能感（Manageability）、有意味感（Meaningfulness）という3つの要素がある。¹¹

このサリュトジェネシス（salutogenesis）と、アントレプレナー（entrepreneur）を掛け合わせて、AMAROKは、アントレプレナーならではの健康維持・増進要因として、サリュトプル

ノリアルという考え方を打ち出したのである。

AMAROKでは、調査研究に基づいて、中小企業経営者に特有の図表11に示す2つの要因について、①を減らしつつ、②を増やすことを提唱している。あるいは、中小企業経営者は、上司から指示されるストレスから解放されていたり、自分自身の采配で会社が動くというやりがいがあるなど、雇用労働者と比較して、もともと心身の健康が良い傾向にあるから、②を満喫しつつ、①に陥らないようにすることを注意喚起している。¹²

6.2. サリュトプルノリアル資本

AMAROKが打ち出したサリュトプルノリアルの資本は、健康増幅とアントレプレナーシップ（起業家精神）を両立させるという二重の特性として定義されている。この概念は、アントレプレナーに見られる2つの要素である問題解決能力とセンスメイキングから構成される。AMAROKの調査研究においては、問題解決能力は、レジリエンス、適応能力、問題解決能力、自己効力感によって測定される。センスメイ

図表11 アントレプレナー（中小企業経営者・個人事業主）特有の要因

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 病気を引き起こす要因 (Pathogenetic factor) : ストレス、不安、過重労働、孤立② 健康をもたらす要因 (Salutogenetic facotr) : 自分の運命を自分でコントロールできる環境、耐久力、楽観的思考、仕事に対する情熱、やりがい |
|--|

11 Aaron Antonovsky, (1996) "The sense of coherence : An historical and future perspective" *Israel Journal of Medical Sciences*, vol.32, no.3-4, pp.170-178.

12 Olivier Torrès (sous la direction de), *La santé du dirigeant. De la souffrance patronale à l'entrepreneuriat salutaire*, 2^e édition, deboeck.

AMAROKならびにオリビエ・トレス教授による中小企業の経営資産としての経営者の健康に関する提言と研究については、以下の文献で、日本語で分析紹介している。亀井克之編著『新たなリスクと中小企業 日仏シンポジウムの記録』（関西大学出版部、2016年）。特に同書中の「第二部 日本リスクマネジメント学会主催 公開シンポジウム（後援 フランス大使館）中小企業・老舗経営者の健康とリスクマネジメント」（2014年11月14日 京都市国際交流会館ホール）に詳しい。

ングの方は、楽観性、希望、自分らしい行動をする能力、自分の行動に意味を与える意思、そして自分の行動が引き起こす結果に責任を取る意思によって測定される。このようにして構成されるサリュトプルノリアル資本の測定によって、個人の適応能力と問題解決能力だけでなく、

行動に意味を持たせる個人の意思や能力が測定できる。AMAROKでは、これらは意思決定の力であると解釈している。¹³

以下に2020年4月調査で用いられたサリュトプルノリアル要因に関する質問項目を示す。各要因の程度を尋ねる設問となっている。

サリュトプルノリアル

これより、パーソナリティ特性・性格傾向（性格）の特徴を挙げていきます。これらの特徴について、コロナ禍以来、1 = 「大きく減少した」、4 = 「変わらない」、7 = 「大きく増加した」の範囲内で答え下さい。

（尺度：1（激減した）、4（変わらない）から7（激増した）まで）

コロナ禍以来、あなたの：

89. 楽観性・オプティミズム
90. 自己効力感・自己可能感
91. 自分らしい行動をとる能力
92. レジリエンス（立ち直る力・困難に立ち向かう力）
93. 自分の行動に意味を与えようとする意思
94. 適応能力
95. 自分の行動に責任を持つ能力
96. 問題解決能力
97. 希望を持つ力

¹³ Torrès O, Guiliani F, Kamei K et R. Thurik (2019), 《Éléments empiriques d'une salutogenèse entrepreneuriale》, 11^{ème} congrès de l'Académie de l'Entrepreneuriat et de l'Innovation, 3-5 juin, Montpellier. (トレス、ギリアニ、亀井、チュリック (2019), 「アントレプレナーの健康を増進する要因についての実証研究」) AMAROKでは、従来より、中小企業経営者ならではの健康増進要因（サリュトジェーヌ）と病気になる要因（パトジェーヌ）の二つが載った天秤に喩えて、天秤をサリュトジェーヌの方に振るにはどうすればよいかというコンセプトで説明している。

6.3. サリュトプルノリアルに関する調査結果

外出制限令以来これらの特性は全体的に増加した。(過去調査の平均値との比較を示した図表12参照) このことは、2020年4月調査から得られた研究から見出せる朗報である。楽観性が低下しているのを例外に、他の特性に変化は見られず、むしろ、わずかに、またはより増加

した項目もある。具体的には、適応能力、問題解決能力、結果を受け入れる能力、自分の行動に責任を持つ能力、そしてレジリエンスである。未曾有の外出制限令下においても中小企業経営者に特有の諸能力やレジリエンスが発揮されたということであろう。

図表12 サリュトプルノリアル資本に関する2020年調査のスコアとの比較 (過去調査の平均値との差)

サリュトプルノリアル的資本の特性	平均	標準偏差
楽観性・オプティミズム	- 0.33	1.299
自己効力感・自己可能感	+ 0.052	1.273
自分らしい行動をとる能力	+ 0.336	1.217
レジリエンス (立ち直る力・困難に立ち向かう力)	+ 0.561	1.245
自分の行動に意味を与えようとする意思	+ 0.671	1.303
適応能力	+ 0.801	1.251
自分の行動に責任を持つ能力	+ 0.718	1.242
問題解決能力	+ 0.629	1.236
希望を持つ力	+ 0.342	1.489
サリュトプルノリアル資本	+ 0.420	1.061

図表13 相関マトリックス (平均値に基づく) :

変数	バーンアウト	情報探索	コネクション	評価	サリュトプルノリアル資本	経営破綻リスク	罹患リスク	リスクテューキング
バーンアウト	1	0.089	0.135	-0.069	-0.322	0.483	0.205	0.021
情報探索	0.089	1	0.356	0.271	0.110	-0.010	0.017	0.185
コネクション	0.135	0.356	1	0.460	0.162	0.050	0.024	0.257
評価	-0.069	0.271	0.460	1	0.279	-0.074	-0.027	0.361
サリュトプルノリアル資本	-0.322	0.110	0.162	0.279	1	-0.249	-0.100	0.255
経営破綻リスク	0.483	-0.010	0.050	-0.074	-0.249	1	0.178	0.006
罹患リスク	0.205	0.017	0.024	-0.027	-0.100	0.178	1	-0.039
リスクテューキング	0.021	0.185	0.257	0.361	0.255	0.006	-0.039	1

おわりに

「会社の規模が小さければ小さいほど、中小企業経営者の健康は会社にとって第一の無形資本になる」とAMAROK代表のオリビエ・トレス教授は、2020年4月調査の調査レポートの中で指摘している。一方、AMAROK日本支部代表で、大妻女子大学の尾久裕紀教授は、精神科医としての立場から、中小企業経営者の健康改善について提言している。

尾久教授によれば、健康課題の改善は、長い目で実践することが大切である。中小企業経営者は、一般労働者より心身ともに健康だが、持続的なストレスがかかると限界を超え、健康を害す。予防のためには、リスク要因を減らし、防御要因を強化するとよい。最も重要な睡眠や食事、運動の時間を確保すること、次に、家族や仲間と過ごす時間を大事にする。いざという時に頼れる人がいることは、ストレスの緩衝要因となる。仕事面では、時に人に任せることも必要である。そして常に大志を抱き、仕事に励むことが健康の秘訣といえる。¹⁴

こうした提言は、外出制限令下で自宅にこもる生活を強いられながらも、経済再開後に思いを寄せて生活していたフランスの中小企業経営者にも当てはまるものであった。同時に、コロナ禍以来、厳しい環境で経営に従事している日本の中小企業経営者や個人事業主にも当ては

まろう。

トレス教授は調査レポートの中で、苦境にある中小企業経営者の心身の健康を支援する社会的サポートの意義を示した。フランス同様に日本でもこうした支援が重要となるのではないか。

AMAROK2020年4月調査は、フランスにおける外出制限令の最中に全土の商工会議所のネットワークを活用して1,925人の中小企業経営者に独自の視点で健康に関する調査を実施したという点で、世界的に類例のない貴重な調査である。本稿は、調査レポートに基づき、その内容の一部を紹介したに過ぎない。今後、アントレプレナーシップ研究の重鎮であるオランダ、エラスムス大学ロッテルダム校のロイ・チュリック名誉教授の研究チームが本調査の結果分析を学術的なジャーナルに発表する予定である。また本稿第一執筆者は、2020年4月調査の質問項目の日本語訳を用いて、日本の中小企業経営者350人に調査を実施した。それに基づく比較分析は今後発表する予定である。

なお、2020年4月調査の課題として、中小企業経営者・個人事業主から得られた回答の傾向がCovid-19の影響だけによるものなのか明確ではない点がある。特に日本での調査については、実施時期に発生した自然災害の影響を排除できないことに留意する必要があるだろう。

14 あんしん財団のWEBサイト <https://www.anshin-kokoro.com/amarok/closeup/>

【参考文献】

- Bourdeau-Lepage L. (2020). *Le confinement et ses effets sur le quotidien, premiers résultats bruts des 2^{ème} et 3^{ème} semaines de confinement en France*, Consultation CORTE_Covid19, Lyon.
- Cullen W., Gulati G. and Kelly B.D. (2020). “Mental health in the Covid-19 pandemic”, *QJM: An International Journal of Medicine*, vol. 113, n°5, mai, pp. 311-312.
- Dufourcq N., et Torrès, O. (2020). «Les entrepreneurs seront les premiers combattants de la reprise économique», *La Tribune*, édition du mercredi 13 mai 2020, Paris.
- Malakoff Humanis (2020). *Communiqué baromètre télétravail en confinement 2020*, Communiqué de presse du mardi 5 mai 2020, Malakoff Humanis, Paris.
- Pfefferbaum B. and North C.S. (2020). “Mental Health and the Covid-19 pandemic”, *The New England Journal of Medicine*, avril, pp. 1-3.
- Torrès, O., (2017) (sous la direction de), *La santé du dirigeant. De la souffrance patronale à l'entrepreneuriat salutaire*, 2e édition, deboeck.
- Torrès, O. and Thurik, R. (2019). “Small Business Owners and Health”, *Small Business Economics*, vol. 53, n°2, August, pp. 311-321.
- Wismans A., Thurik R., Verheul I., Torrès O. and Kamei K. (2020), “Attention-Deficit Hyperactivity Disorder Symptoms and Entrepreneurial Orientation: A Replication Note”, *Applied Psychology: An International Review*, Volume69, Issue3, July 2020, pp.1093-1112.
<https://doi.org/10.1111/apps.12247>
- Wismans A., Kamei K., Thurik R., Verheul I. and Torrès O. (2020), “The Link between Attention-Deficit Hyperactivity Disorder Symptoms and Entrepreneurial Orientation in Japanese Business Owners” *Management Review Quarterly* (to be published) DOI 10.1007/s11301-020-00202-9.
- 尾久裕紀「中小企業経営者のメンタルヘルスの現状－その課題と展望」『日仏経営学会誌』第33号、2016年、28-40頁。
- 亀井克之編著『新たなリスクと中小企業 日仏シンポジウムの記録』（関西大学出版部、2016年）（「第二部 中小企業・老舗 経営者の健康とリスクマネジメント」）
- 亀井克之「中小企業経営者の健康とリスクマネジメント－日仏共同第1回調査の結果から見えるもの－」『商工金融』2017年10月号（第67巻第10号）、2017年10月、41-56頁。
- 亀井克之・尾久裕紀・金子信也「中小企業における健康経営と経営者の健康 日仏比較研究より」『危険と管理』第50号、日本リスクマネジメント学会、2019年6月、33-39頁。
- 亀井克之・尾久裕紀・金子信也「中小企業における事業承継と経営者の健康 日仏比較研究より」『危険と管理』第51号、日本リスクマネジメント学会、2020年4月、210-222頁。
- 亀井克之「コロナ禍・外出制限令下の中小企業経営者の健康調査より－南仏発・2020年4月フランス1925人の経営者へのアンケート結果－」連載「南仏閑話」第8回、『産業能率』2020年9-10号、大阪能率協会、2020年9月、16頁。
- 栗岡住子、亀井克之、尾久裕紀、オリビエ・トレス「中小企業経営者における職業性ストレスの実態解明（第1報）」『桃山学院教育大学研究紀要2019』2020年2月、15-25頁。
- 堀越昌和「新興感染症と中小企業経営」『商工金融』商工総合研究所、2020年9月号、45-58頁。

本稿は以下の研究成果の一部である。

2019年度～2021年度 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C) 19K11233「中小企業経営者における職業性ストレスの尺度開発と実態解明の研究」； 2018年度～2020年度 堺市と関西大学との地域連携事業「ホスピタルアートのある街」堺のブランド力向上と堺市民の健康意識向上への貢献。